

■取組の背景

- 品質管理技術が船団によって異なり、水揚げされる魚の鮮度にバラつきがあった。
- 人手不足によって産地市場の水揚げ処理能力が低下していた。

■取組の目的

- 品質管理技術の体系化、マニュアル化の推進
- 効率的な選別ラインの導入や自動化による省力化・省人化
- 輸出の効率化に向けた情報共有システムの構築

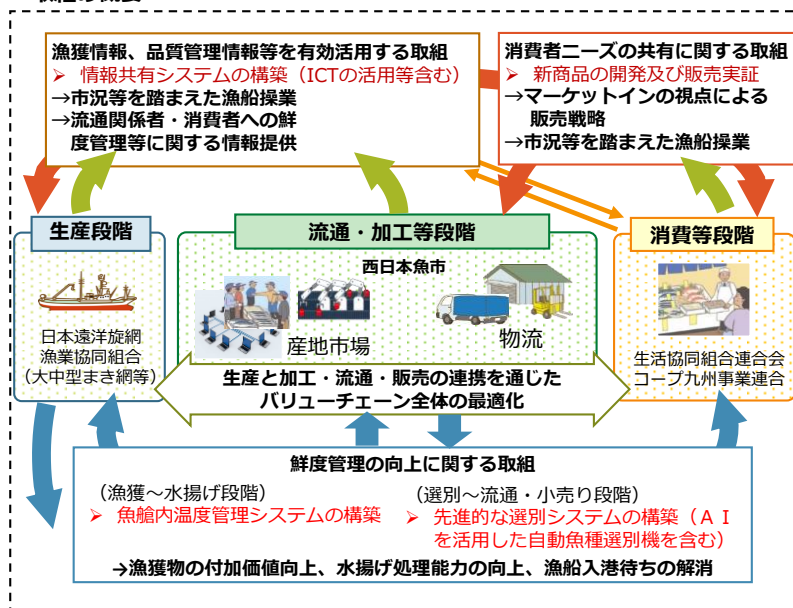
■協議会の構成員と役割

	段階	名称	役割
事業実施者	生産	日本遠洋旋網漁業協同組合	・全体のとりまとめ ・漁獲から水揚げまでの取組促進
	流通	西日本魚市株式会社	・水揚げから選別・保管に係る取組促進
	消費	生活協同組合連合会 コープ九州事業連合	・消費者ニーズに関する情報提供 ・新商品開発への協力

■取組内容

生産	◆まき網漁獲物の品質管理技術の体系化
	✓ 品質管理試験の実施➢魚舱内の温度推移や、 漁獲物の温度・鮮度を測定及び分析 し、課題を抽出 ✓ 魚舱内の温度管理システムの構築➢品質管理試験結果を踏まえ、 温度管理システムを構築 し、組合傘下の船団に周知することで、 漁獲物の品質管理を強化 ✓ 実験結果を用いたPR➢高鮮度化に向けた取組の成果を 消費者へPR し、さらなる消費拡大を図る
加工・流通	◆選別・荷役作業の効率化
	✓ 選別荷役処理の現状分析➢現状の選別荷役作業を分析することで、課題を抽出し、 機械化・効率化 に向けた検討を実施 ✓ 効率的な選別ラインの導入 ➢選別の効率化を図り、 将来的な労働力の減少にも対応できる選別荷役処理システムを導入 ✓ AIを活用した自動選別システムの導入に向けた検討 ➢最終的には、 AIを用いた画像解析技術の導入による自動魚種別の実現 を視野に入れ検討
販売	◆マーケットインによる商品開発の実現
	✓ 産地直結の販売ルートを構築➢消費者団体であるコープ九州との協力により、 産地と消費者の交流 を実現 ✓ 消費者ニーズの把握➢コープ九州との連携・協力により、 消費者のニーズに沿った販売戦略 を構築 ✓ 新たな水産加工品の開発に向けた検討 ➢消費者ニーズに沿った 新たな商品開発 を検討

■取組の概要



■取組の現状と今後の展望

- 漁獲物の温度管理を継続。一部の生産者は自主的に温度管理システムを導入など高鮮度化に対する意識が向上。
- AI、ロボット等を用いた選別の効率化に向けて、継続した魚種選別試験を実施しているものの、試験に係るコスト増大が課題。
- コープ九州との連携により、製品の売上金額は年々増加。

★本取組によって得られたバリュー★

AI・DXの活用（課題解決）	効率的な選別荷役システムの構築による省人化
付加価値向上	温度管理システムの導入による漁獲物の高付加価値化
商品開発	消費者ニーズに沿った新商品の開発